



23:31 そこで、兵士たちは命じられたとおりパウロを引き取り、夜のうちにアンティパトリスまで連れて行き、
 23:32 翌日、騎兵たちにパウロの護送を任せて、兵營に帰った。
 23:33 騎兵たちはカイサリアに到着すると、総督に手紙を手渡して、パウロを引き合わせた。
 23:34 総督は手紙を読んでから、パウロにどの州の者かと尋ね、キリキヤ出身であることを知って、
 23:35 「おまえを訴える者たちが来たときに、よく聞くことにしよう」と言った。そして、ヘロデの建てた官邸に彼を保護しておくように命じた。
 24:1 五日後、大祭司アナニアは、数人の長老たち、およびテルティロという弁護士と一緒に下って来て、パウロを総督に告訴した。
 24:2 パウロが呼び出され、テルティロが訴えを述べ始めた。「フェリクス閣下。閣下のおかげで、私たちはすばらしい平和を享受しております。また、閣下のご配慮により、この国に改革が進行しております。
 24:3 私たちは、あらゆる面で、また、いたるところでこのことを認め、心から感謝しております。
 24:4 さて、これ以上ご迷惑をおかけしないために、私たちが手短かに申し上げることを、ご寛容をもってお聞きくださるようお願いいたします。
 24:5 実は、この男はまるで疫病のような人間で、世界中のユダヤ人の間に騒ぎを起こしている者であり、ナザレ人の一派の首謀者であ

ります。
 24:6 この男は宮さえも汚そうとしましたので、私たちは彼を捕らえました。
 24:7 【本節欠如】
 24:8 閣下ご自身で彼をお調べくだされば、私たちが彼を訴えております事柄のすべてについて、よくお分かりいただけると思います。」
 24:9 ユダヤ人たちもこの訴えに同調し、そのとおりだと主張した。

パウロがローマに行くために、様々な人々が主に用いられました。彼は囚人として連れられるのですから、皆が彼の味方ではありません。中には神様に敵対しつつも、結局用いられるという者もあるのです。

千人隊長は任務であるがゆえに、祭司長は傲慢と保身を目的とするがゆえに、総督は権威を守りたいがゆえに、主に用いられる結果となりましたが、神様からの良い報いなどは有り得ません。私たち人間は自分の意思で動いているようですが、結局は全能の神様のご計画に用いられるのです。ならば、神の味方、神の民として、神様から良い報いを受けた方がはるかに幸いです。主を愛する動機を心に広げましょう。主のために生きましょう。色々なことを主のためにという目的で、見直してみましよう。

大祭司アナニアと長老たちは、パウロを訴えたいがために、またそれを受け入れて欲しいがために、総督ペリクスに取り入っているのがわかります。人間は共通の敵をもつと仲良くなれるもので、国際関係でさえそれで動くことがあるほどです。テルトロの訴えはまさに、パウロを共通の敵としようとしています。

私たちはもしかするとこれまでにパウロのような辛い経験をしたことがあるかもしれません。または逆に、気が付くと誰かを共通の敵（または批

判の対象)にしていたかも知れないと気づくこともあったでしょう。

動機や目的が間違っていると、または神様の御心からずれていると人間的な画策に走りやすいもので、結局アナニアたちのように味方を取り込みながら、誰かを批判するということになりかねません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

